

事例理解の枠組み

市川市生活サポートセンターそら

朝比奈ミカ

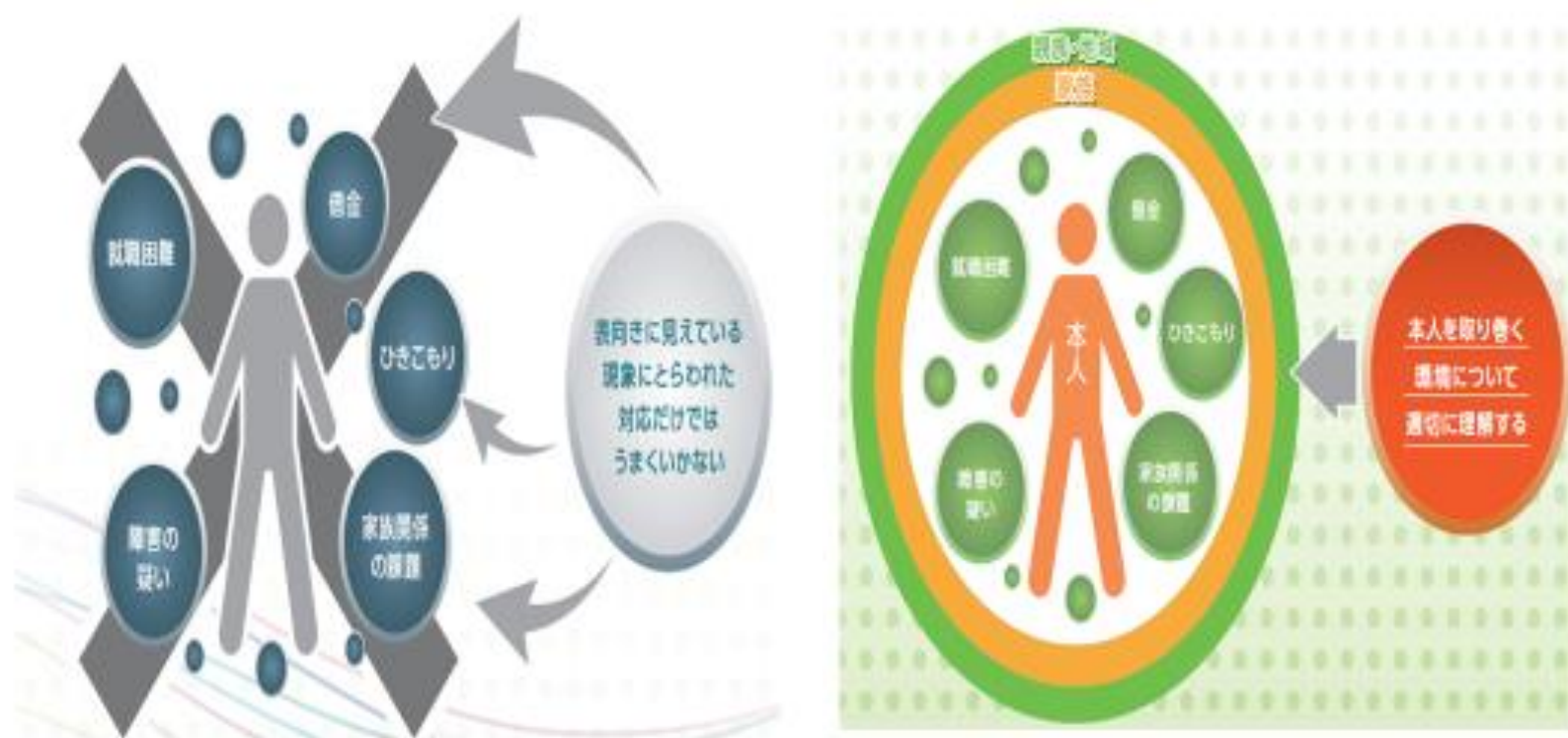
本人と 取り巻く環境を 適切に理解する

- 現象としてみえる課題の奥にあるものについての理解を深め、その人について適切に理解することが重要。

<実践上のポイント>

- 言語によって語られることだけでなく、時間や空間を共有する。
- 表情や態度等、非言語の情報も含め、観察したり、感じ取ったことも取り上げていく。
- これまでや現在の生活に関わってきた人たち（親族や近隣、関係機関等）からも必要な範囲で情報収集し、多面的に理解するよう努める。
- 本人と周囲との関係を知り、価値観や考え方、行動に影響を与えている環境や人の存在を考える。

本人と周囲の環境を適切に理解する

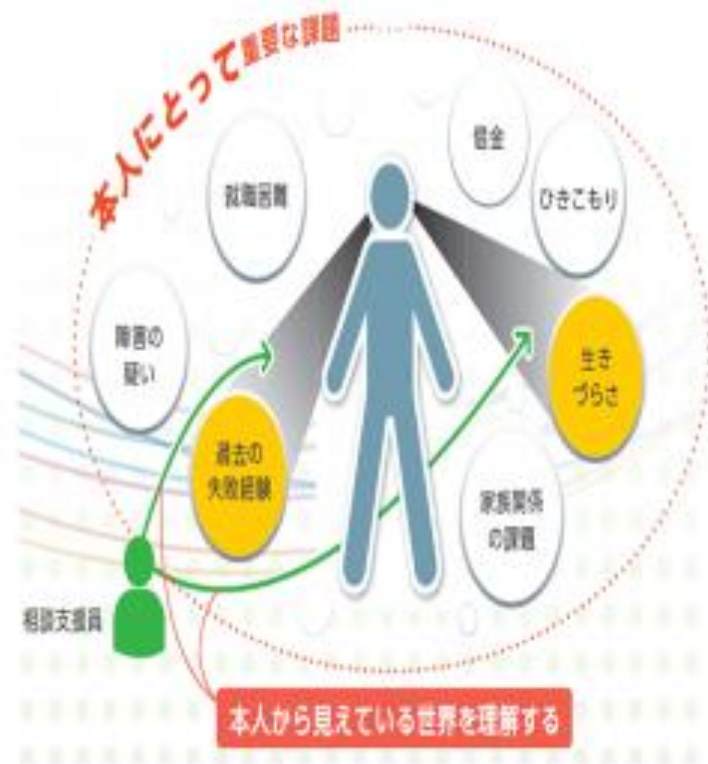
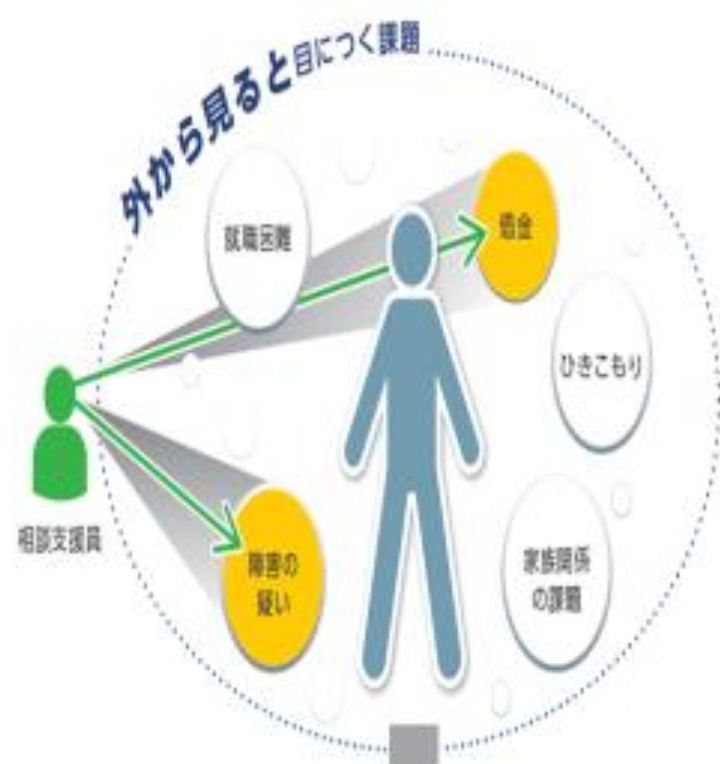


『事例から学ぶ自立相談支援の基本』(H28年3月/みずほ情報総研)

本人の側に立って、
本人から見える
世界への理解を
深める

- 自分自身の状況や自分を取り巻く環境がどのように見えており、どのように課題を捉えているのか、「本人から見えている世界」への理解を深める。
- <実践上のポイント>
 - 信頼関係を基礎として、本人の主訴を引き出す。
 - 生育歴や生活歴をひもとき、価値観や考え方、行動がどのように形成されてきたのかを考え、理解する。
 - 本人の認知や行動の特性やパターンを理解し、そのことによる生活のしづらさの有無や度合いを考える。
 - 社会的に逸脱した行動があったり、認識にズレがある等の場合であっても、「なぜそうなるのか」「本人は今どのような認識でいるのか」理解に努める。
 - 本人の心情を理解し、生きづらさや自己肯定感の低下の状況などにも目を向ける。

本人から見える世界への理解を深める

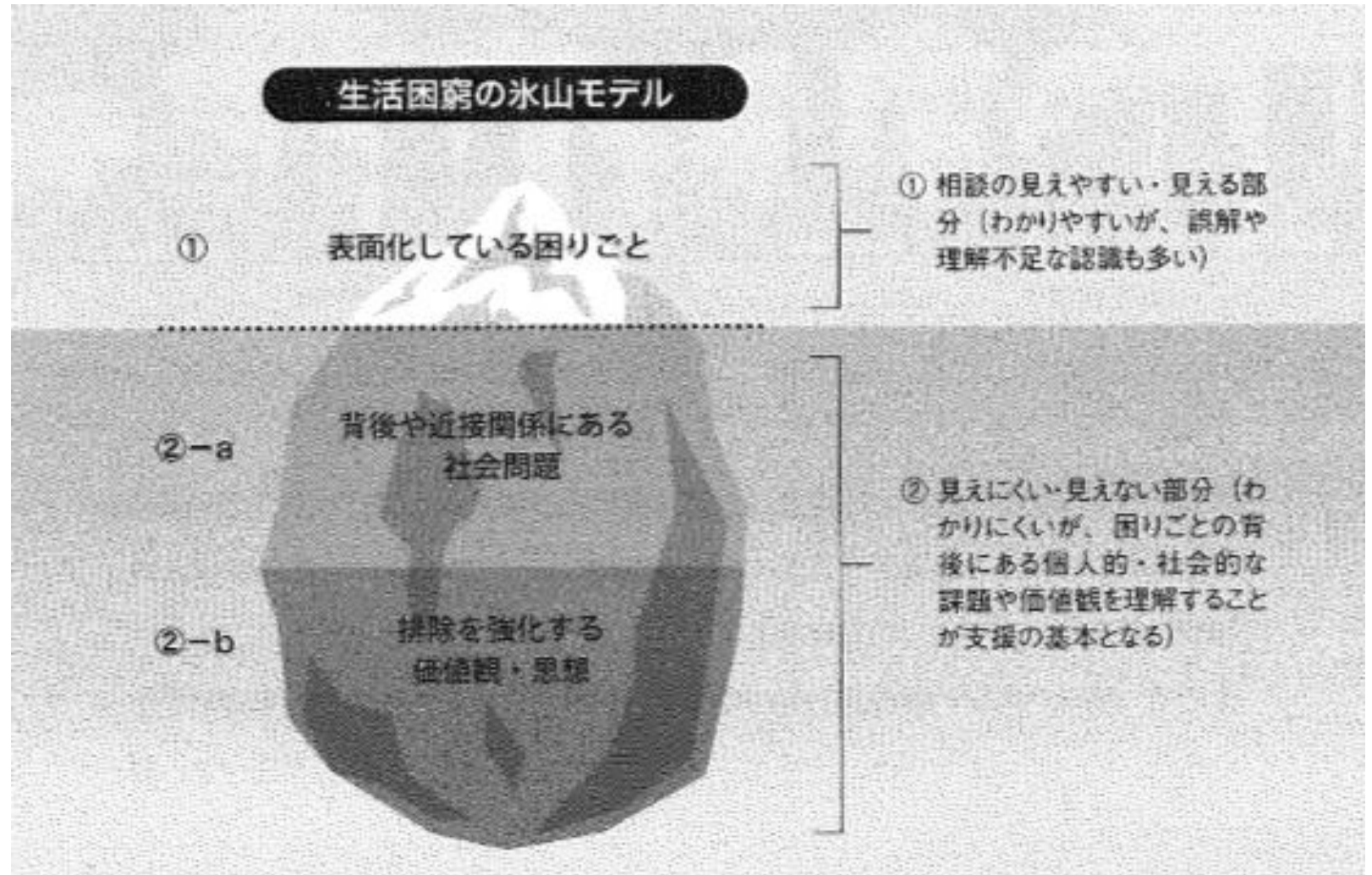


『事例から学ぶ自立相談支援の基本』(H28年3月/みずほ情報総研)

本人理解から 本人への支援 を導き出す

- 本人自身が課題と向き合い解決していくことが重要で、それを促すための相談支援員の働きかけの方法について考えることが大切。
- <実践上のポイント>
 - 本人が思いや考えを整理するために、それらを言語化して相談支援員と話し合える関係をつくる。
 - 本人の変化に向けた歩みに一歩下がった位置で付き添い伴走しながら、共有した場面をいっしょに振り返り、本人が方向性を見出す手助けをする。
 - 本人が周囲に支えられながら課題に向き合って解決する経験を少しずつ積むなかで、自分と周囲に対する信頼を回復し、自分にできることについても気づいていけるように働きかける。
 - 本人の「現在」だけでなく、支援から離れたその後の本人の「未来」も視野に入れながら支援する。

冰山モデルの 理解と活用



氷山モデルの 理解と活用

①「周囲が困っていること」ではなく、相談者「当事者の困りごと」に寄り添う

②-a 困りごとが生じたプロセスや背景を想像し、確かめ、理解する

②-b 困窮に陥る人たちの多くはさまざまな「マイノリティ要素」を持っている。

相談支援員自身と社会全体にある排除構造を強化するマジョリティの価値観を自覚する。